

髄膜炎菌ワクチンに関する説明書

髄膜炎菌による病気と流行状況

現在日本で髄膜炎菌による流行性脳脊髄膜炎はまれにしかみられません。アフリカ、中近東、南米では流行がみられます。特に、アフリカ髄膜炎地帯といわれる、スーダン、チャド、ナイジェリア、ニジェールでは髄膜炎菌による髄膜炎の大流行があると報告されています。髄膜炎菌ワクチン接種をしていない旅行者が入国を拒否される場合もあると言われていています。また米国でも年間2,600例程度の髄膜炎菌性髄膜炎患者が発生していると推定されています。特に寮生活をする大学生の罹患が問題視され、日本からの留学生が入学前に髄膜炎菌ワクチン接種を要求されることもあります。

髄膜炎菌ワクチンの種類

現在開発されて、外国で市販されている髄膜炎菌ワクチンは、菌の病原性に関連した成分を取り出して作った不活化ワクチン（成分ワクチン）だけです。

髄膜炎菌は菌体の外側にある莢膜多糖体抗原によって13群に分類されていますが、そのうちA群とC群の抗原を混合した2価ワクチンとA群、C群、Y群、W-135群の抗原を混合した4価ワクチンが製造されて欧米諸国などで接種されています。ほかに、小児を主な接種対象とした抱合型C群髄膜炎菌ワクチン、5歳以上を接種対象とした抱合型A群、C群、Y群、W-135群4価髄膜炎菌ワクチンが開発され、一部の国々で接種されています。なお、上記いずれの髄膜炎菌ワクチンも現在日本においては未承認です。

髄膜炎菌ワクチンの接種法

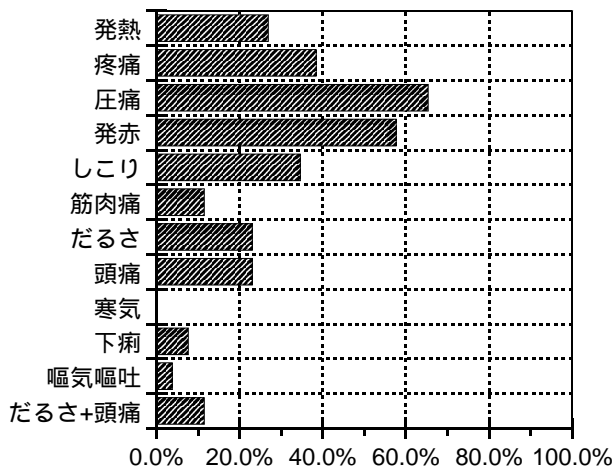
A・C群混合2価ワクチンも、A・C・Y・W-135群混合4価ワクチンのいずれも0.5mlを皮下に1回注射します。抱合型C群髄膜炎菌ワクチン、抱合型A群、C群、Y群、W-135群4価髄膜炎菌ワクチンは、いずれも0.5mlを1回筋肉内に注射します。

髄膜炎菌ワクチンの効果

今回用いる髄膜炎菌ワクチンはアベンティス・パスツール社製のA・C・Y・W-135群混合髄膜炎菌多糖体ワクチンです。本ワクチン接種後7-10日後には発病を防ぐに足りるレベルの抗体が産生されます。抗体陽転率は抗原群によってばらつきがみられますが、89%から99%と報告されています。1回の接種で成人では約3年間抗体が持続するとされています。注意しなければならないことは、このワクチンに含まれていない抗原型の髄膜炎菌（例えば、B型）による感染症はワクチンを接種しても予防できないことです。

事故や病気の治療のため脾臓を摘出した人や脾臓の働きが悪い人、血中補体成分の一部（C3、C5-C9）が欠乏している人では、髄膜炎菌感染症が重症になるので、定期的に接種することが勧められています。

髄膜炎菌ワクチンの副反応および禁忌事項など



当院で髄膜炎菌ワクチン接種を受けた成人 26 名が訴えた接種部位の症状は、圧痛が 17 名 (65.4%)、発赤が 15 名 (57.7%)、疼痛が 10 名 (38.5%)、しこりが 9 名 (34.6%) でした。全身症状では発熱が 7 名 (26.9%)、だるさ、頭痛が各 6 名 (23.1%)、筋肉痛が 3 名、下痢 2 名、嘔気嘔吐 1 名でした。発熱者の最高体温は、37.5、37.3 が各 1 名、37.2 が 3 名、37.1 が 2 名でした。また、だるさと頭痛を併せて訴えた人が 3 名いました。下痢を訴えた 2 名のうち、1 名は接種翌日 1 日で治まっており、他の 1 名は接種 2、4、8 日後にそれぞれ 1 日だけの下痢がみられました

が、2 例とも他の原因による下痢の紛れ込みと考えられます。

禁忌事項：以下の 1)と 2)に該当する場合は本ワクチンの接種ができませんので、あらかじめ予診票にご記入をお願いして、確認させていただきます。

- 1)急性疾患にかかっているとき
- 2)本ワクチンに保存剤として添加されているチメロサルおよびその他のワクチン成分にアレルギーのある人

その他の注意事項

- 3)乾燥天然ラテックスゴムにアレルギーのある人は、本ワクチンのバイアルの蓋に乾燥天然ラテックスゴムが含まれているので、注意が必要です。事前に、担当医に相談してください。
- 4)妊娠中の女性：本ワクチンの妊娠に対する影響は検討されていないので、妊婦は必要不可欠の場合を除いて接種を避けてください。
- 5)授乳中の女性：本ワクチンの成分が母乳中に排出されるかどうかは不明ですが、排出される可能性はありますので、注意が必要です。事前に、担当医に相談してください。
- 6)本ワクチンは本邦において未承認であるため、たとえワクチンによる健康被害が発生しても、それに対する特別の補償はありません。

健康記録表への記入のお願い

ワクチン接種後に健康上の異常がないことを確認するために、別紙の健康記録表への記入をお願いします。

髄膜炎菌ワクチンの接種代金

予防接種は健康保険診療の対象ではありませんので、予防接種を受ける場合には、当院での診療に係わる初診料または再診料は自費負担となります。

また、本ワクチンは当院の薬剤費で海外から個人購入したものですので、本ワクチンの接種を受けた方には、ワクチン購入費および通関料を含めた輸送費から算定したワクチン代金を負担していただきます。